

(別記様式)

令和5年度 京都府立朱雀高等学校 通信制課程 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 生涯学習と社会的自立の基盤となる基礎学力を身に付け、社会に主体的・自律的に参画できる心豊かでたくましい人間の育成を目指す。 2 生徒の期待に応え、生徒の多様性が尊重される学校体制を作るとともに、生徒自身が将来に展望をもち、学び続けられる「生徒本位」の学校づくりに取り組む。	1 多様な生徒が在籍している現状を鑑み、各種教材やテスト等の改善、ICTを活用したスクーリングの効果的な実施方法について研修を深めた。 2 生徒の単位修得と卒業に向けて、教職員全体で、指導の精緻化を進めた。 3 教職員全体で特別支援教育に係る理解を一層深め、生徒の実態を把握しながら寄り添った指導ができるよう研修を深める必要がある。	1 ICT機器を活用したスクーリングの効果的指導方法を研究し、生徒の自学自習が一層進むよう、学習支援の在り方を研究する。 2 卒業者数、単位修得者数の増加を目指し、ガイダンス機能を充実する。 3 特別な支援が必要な生徒の学習が円滑に進むよう教職員の理解を一層深めカウンセリングマインドを基盤にした対応能力の向上をはかる。様々な機会を通じて、関係機関との連携、HPやパンフレットの充実、説明会等で通信制課程の広報に努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題	
1 組織・運営	・学校経営方針に即した組織や体制を整え、学習指導の充実・改善に努める。 ・通信制課程の特色を外部に発信する広報活動の拡充を図る。 ・令和5年度開催の全通研京都大会に向けた校内体制の整備をはかるとともに、他の通信制高校との交流をすすめる。	・学校経営計画に基づき、分掌・担任・教科が連携して、具体的な取組を実施することで、教育活動の充実に努める。	B	B ・生徒の状況を把握するとともに、外部機関(児相、医療機関等)との連携を積極的に進めることができた。 ・ホームページの刷新、充実に努めることができた。 ・全通研京都大会の主管校として全教職員が一致して、大会運営に臨むことができた。また大会で全国の通信制高校の動向や取組に触れ、教職員の意識高揚につなげることができた。
		・ホームページの刷新、充実と利用促進を図るとともに、様々な機会を使って広報を充実する。	B	
		・全通研京都大会に向けて校内体制を確立し、関係機関と連携し、準備に努めるとともに他校との交流を通じて教員の指導力を高める。近通研の各部研究会に参加し、教員の指導力向上に努める。	A	
2 教育課程の編成と実施	・単位制の特色を生かし、多様な生徒にそれぞれの能力・興味・関心に応じた幅広い選択科目を設置し、生徒一人一人の個性伸張を図る。また多様な学習履歴を持つ転編再入学生の学習が円滑に進むような教育課程の編成を進める。	・基礎力の充実に主眼を置いた科目と特色ある科目を設置し、生徒の様々な要望に応える。 ・特色有る教育課程の編成を前提に、本人の能力適性を見極め、生徒自身が適切な受講科目登録ができるよう指導する。	B	B ・多様な学修履歴のある生徒が卒業まで順調に学習が進むよう必修科目の修得を第一に据えながら、新たに設置した学校設定科目もふくめ、各教科とも基礎的な内容を中心とする多彩な選択科目を配置することができた。
3 学習指導	・生徒が自ら学び自ら考える力を培うことを基本とし、基礎学力の充実をはかる。単位修得と卒業に向けて生徒の学習進捗状況を把握しながら個に応じた適切な指導ができるガイダンス機能を整える。	・スクーリング(面接指導)の日程と内容、レポート(報告課題)、テスト(考査)の内容を「学習ガイド」としてまとめ、生徒が年間を通じて計画的かつ継続的に学習するよう指導する。 ・「学習ガイド」の内容を生徒が理解しやすいような内容になるよう継続的改善する。	C	・本年度は、学習ガイドの訂正があったが、生徒に丁寧に連絡を行うことで対応、トラブルはなかった。次年度は多くの教員で学習ガイドの作成・校正に努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題	
3 学習指導	・基礎学力の定着を主眼に置いたレポート作成やスクーリング指導の充実をすすめる。	・学習指導要領で定められた面接指導のあらゆる場面において、生徒の多様性を尊重しながら個に応じた丁寧な指導ができるよう心がける。	B	B ・生徒に応じたきめ細かな指導・支援取組ができるように工夫改善を推進する。 ・学習の基本である自学自習を様々な面から支援する取組の研究を進めた。計画的にレポートをすすめられるような指導をより工夫していく。 ・日曜日のスクーリング時にテスト時間を追加した。前半は講義中心、後半に自習・質問形式のスクーリングを配置し、多様な学習進度の生徒に対応できるよう配慮した。
		・学習内容の定着に重点を置き、かつユニバーサルデザインを意識したレポートやテスト作りの工夫を学校全体で共有しながら取り組む。	B	
		・生徒の学習が一層進むよう、スクーリングやテスト日のあり方や、ホームルーム指導のあり方などについて教職員間で検討をすすめる。	A	
4 生徒指導	・様々な年齢層の生徒、支援を必要とする生徒、仕事や家庭と学習の両立を図る生徒など、多様な生徒の学校生活が充実するように援助する。	・よりよい学習環境づくりを推進するため、全教職員で登下校時に校門立哨指導を実施する。 ・全教職員で放課後の校舎内外の清掃等を、全てのスクーリング日・テスト日で実施する。	A	A ・スクーリング日やテスト日では校内及び学校周辺の巡回および清掃を計画的に実施し、良好で落ち着いた学習環境を維持することができた。
5 特別活動	・生徒会活動や学校行事、部活動、人権学習などを通して、相互交流を促し、生徒が学校生活に慣れ親しみ、積極的に学習に取り組める環境となるよう指導、支援する。	・生徒会活動においては、行事の企画・運営等について生徒が協力しながら自主的に企画・運営できる能力を育成する。 ・部活動においては、健康面と安全面に十分配慮しつつ、共通の興味や関心に基づく活動が継続できるよう支援する。 ・特別活動を通じて、生徒の自主性・自立性を高め、互いを尊重する態度を涵養することで、生徒が充実した学校生活を送れるよう、指導・援助する。	B	B ・生徒会行事においては、執行部を中心に、生徒が自主的・主体的に企画、計画し活動できるように援助した。執行部の人数が増えて活発化しており、特に通信祭では生徒会主催のビンゴ大会やスタンプラリーなど参加型企画を開催し好評であった。 ・部・同好会活動は、部も増えており今後も豊かな学校生活を送る一助になるように活動を支援していきたい。
6 人権教育	・生徒一人ひとりの人権意識を高め自他を個人として尊重する姿勢や態度を育成する。	・身近な人権問題を中心テーマに設定した学習会を実施し、一人ひとりの尊厳と人権を尊重する教育の推進を図る。	B	B ・近年増加するDVをテーマに講演会を依頼した。事例を元にしたわかりやすい内容でアンケート結果から、多くの生徒が、広い視野で認識を深められた。 ・「朱雀だより」で、人権学習などの目標等をあげ、自他を尊重する人権意識の涵養を促した。

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題	
7 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の進路希望・適性、学力を的確に把握し、様々な機会を通して進路情報を提供し、生徒の進路保障に努める。 ・生徒自身が自ら将来を展望し、望ましい職業観・勤労観を身につけながら、進路実現に向けて、主体的に取り組む姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職説明会や就職セミナー等を開催するとともに、ハローワーク及び京都自立就労サポートセンターとの連携を通じて就職指導の充実をはかる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自立就労サポートセンターと連携を図りながら、就職説明会および4回の就職セミナーを実施し、就職支援に努めた。 ・進学説明会・進路学習会・通信制大学進学説明会を開催し、希望進路の実現に向けて支援に努めた。今後とも進路意識向上を促進するための指導を継続したい。 ・「朱雀だより」「進路ガイド」等を通して、進路意識の向上に努めた。個別指導の充実が今後の課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進学説明会を実施するとともに、個々の生徒への助言を通じて、進学希望者の進路実現を支援する。各種発行物を通じて、進路実現に向けた啓発につとめ、生徒の進路意識向上に努める。 ・8月転編入生への進路指導を充実させる。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動において、学年部と連携しながら進路指導を充実させ、個別相談・個別指導の機能を高める。 	B	
8 健康 安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康を生徒が自ら管理できるように支援する。 ・生徒の美化意識の向上に向けた指導を充実し、学習環境の維持向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな配慮や特別支援が必要な生徒の実態把握に努め、必要な支援を行うとともに教職員の対応能力向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関とも連携を図りながら、校内研修会や職員会議での情報交換をとおして特別な配慮や支援を必要とする生徒の実態把握に努めた。 ・「朱雀だより」や各種掲示等を通じて、美化環境衛生・健康安全に対する啓発を行った。 ・薬物乱用防止に関する啓発・指導については、夏季休業前の7月に薬物乱用防止学習会を実施した。 ・ホームルームの時間を利用して、美化活動を行う予定をしていたが、実施に至らなかった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動や「保健だより」の発行を通じて、生徒が自らの健康自己管理能力の増進を図るとともに心身の健康の保持と増進の啓発に努める。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用の防止学習会を早期に実施し、生徒が薬物の害毒を身近な問題と捉え、誘惑に負けない対処法を身につけるよう指導する。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動を活用した美化指導や環境衛生等に関する啓発を行い、環境美化の意識向上を図る。 	C	
9 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全な学習環境づくりを全教職員が一致して推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期環境衛生検査の実施、校内安全点検・環境衛生点検等を随時実施し、環境美化と安全な学習環境づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検査・点検を定期的実施し、環境の改善に努めた。 ・健康診断の受診率を高めるため、日程の工夫や啓発を行った。生徒の健康状況を教職員で情報共有するための研修会を実施した。 ・スクールカウンセリングが利用しやすいよう、スクールカウンセラーによる健康学習会を実施した。 ・危機管理マニュアルを作成し、教職員間で共有するとともに、悪天候時の生徒連絡事項をQRコードで配布した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断等の各種調査を通じて、生徒の心身の健康状況を適確に把握し、心身の健康増進に努める。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制（不審者対策、防火・防災管理）の確立を図るとともに、教職員の意識高揚と実践的対応力を身につける。 	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題	
10 研修	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会を通じて、教職員の資質を高めるとともに、教育活動に活かすことのできる実践的な研修内容を検討する。 通信制課程の課題を明らかにし、課題解決に資する研修を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌が企画する教職員研修会を企画し、その実施・運営・充実に努める。 三課程合同で研修会を企画・開催する。 	A	A <ul style="list-style-type: none"> 各分掌の課題を研修で明らかにし業務改善に努めた。三課程合同で人権研修を実施し、若手教職員の意識高揚に努めた 講師を招聘し、ユニバーサルデザインの研修会を実施、知見を深めた。 全国大会参加で得た知見を共有するための研修を実施した。近畿地区の各部研究会に希望者が参加した。
		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育校内委員会等を通じて、生徒理解を進め、適切な対応方法等を学び教育実践に活用する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 全国、近畿の通信制研究会の研修会や全国大会等に参加し、通信制課程の教育の在り方について理解を深める。 	A	
11 情報・文書管理	<ul style="list-style-type: none"> 校内ネットワークの維持管理に努める。 情報発信の基本となるホームページの改善、充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での情報共有を進めるための効果的なネットワーク活用やICT機器活用について研究する。 	B	B <ul style="list-style-type: none"> 教員用のタブレット端末が一部配備されたことによりスクーリング時の活用方法の研究が必要となる。 生徒・保護者等の利便性を高めるため連絡や教材等を掲載し、ホームページの充実ははかる必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 他校事例も参考にしながら通信制課程におけるホームページの活用法を研究し、更新を通じて生徒・保護者に学校生活の様子を発信する。 	B	
12 家庭・関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な情報発信による開かれた学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「朱雀だより」の発行やホームページの更新を通じて情報発信・家庭への広報を推進する。 	B	B <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者への郵送物などの誌面の工夫に努めた。 生徒の状況を把握するとともに、外部機関（児相、医療機関等）との連携を積極的に進めることができた。 学校説明会が盛況で、通信制課程の認知度が上がったように感じた。 個別相談等での質問や指摘を踏まえて説明会の内容改善をはかる必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 福祉関係機関や児童相談所等の関係機関と連携し、生徒が卒業に向けて積極的に学習活動に集中できるよう支援する。 	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 個別相談の要望に極力応え、通信制課程への理解が深まるよう広報に努める。保護者の意見や教育活動の中で指摘のあった事項を受け止め教育活動の改善・充実に努める。 	B	

学校運営協議会・評価委員会による評価 三課程併設の府立高校として、施設・設備面でも課題があり、デメリットもあるが、メリットを生かす方向で何か大きな取組をするとい。例えば、地域との接点をもつ、課程間の垣根をなくす交流の取組などを考え、逆転の発想でもっとPRすると良い。転学生徒を中心に多様な生徒が在籍しているが、再チャレンジの環境を大切にしてほしい。支援が必要な生徒も増えているので、特別支援の視点をもった教員を育ててほしい。今後とも多様な生徒に寄り添った指導を心掛けてほしい。

次年度に向けた改善の方向性

- 多様な生徒が学びやすい学習環境の整備や学習システムの改善点について検討を続ける。
- 単位修得者数や卒業生数の増加に向けて、指導方法の見直しや教材の在り方について研究を深める。
- 通信制課程に求められるICTの利活用について検討を続ける。

A：十分に達成できている B：ほぼ達成できている C：達成できているとはいえない D：ほとんど達成できていない